

## —あおぞら—

### 全国環境研協議会の取り組み ～大気保全に関連する事業を中心に～

全国環境研協議会 会長  
岡山県環境保健センター所長  
岸本 壽男

このたび、大気環境学会誌の巻頭言を執筆させていただく機会をいただきましたので、全国環境研協議会（以下「協議会」という）の取り組みについて御紹介したいと思います。

はじめに、協議会は昭和46年11月に「全国公害研協議会」として発足し、平成13年に名称を現在の「全国環境研協議会」に変更しました。会員機関は「地方自治体の設置する環境保全及び公害防止施策に係る試験研究を行う機関（地方独立行政法人及び財団を含む）」であり、現在は67機関で構成されています。協議会の活動内容は「環境関係機関の連絡を密にし、業務の運営、知識及び技術の向上を図ることで、地域住民の健康の保護と、生活環境の保全に寄与すること」を目的に大気保全をはじめとする環境保全等に資する各種の事業を行っております。具体的な事業は、5つの支部（北海道・東北支部、関東・甲信・静支部、東海・近畿・北陸支部、中国・四国支部、九州支部）、及び5つの部会（広報部会、企画部会、酸性雨広域大気汚染調査研究部会、環境生物部会、精度管理部会）を中心に実施しております。このうち、広報部会、企画部会及び酸性雨広域大気汚染調査研究部会の大気保全に関連する3つの事業を御紹介したいと思います。

広報部会は「全国環境研協議会誌」（以下「会誌」という）を季刊（年4回）で発行し、酸性雨全国調査結果（詳しくは後述の酸性雨広域大気汚染調査研究部会を参照）等の各種の特集記事、会員機関から投稿されたPM<sub>2.5</sub>等の環境保全に関する論文などを会誌に掲載しております。会誌は電子ジャーナルとして、国立研究開発法人国立環境研究所のウェブサイトである「環境展望台」に掲載させていただいており、会員機関以外の方にも広くに閲覧いただけますので、ぜひ御覧いた

だければと思います。

企画部会は大気環境学会年会をはじめとする各種学会の開催に併せて、併設集会を開催しております。今年度の大気環境学会年会では、平成29年9月6日（水）に「第58回大気環境学会併設特別集会」を開催し、「PM<sub>2.5</sub>高濃度の地域別特徴と近年の動向」をテーマとして、6題の口頭発表を行いました。例年、本併設集会の開催に当たりましては、貴学会の皆様にご多大なる御協力を賜り、この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。今後とも、どうぞよろしく御願い申し上げます。

酸性雨広域大気汚染調査研究部会は、平成3年以来、酸性雨全国調査を継続し、現在は、平成28年度に開始した第6次調査を実施しております。例年、大気環境学会で酸性雨全国調査の成果を発表させていただいており、今年度も4題のポスター発表を行いました。また、これまでの酸性雨全国調査結果報告書は、会誌に掲載しておりますので、御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、貴学会は、地方環境研究所のほか、国立・民間の研究所、大学、民間企業など、様々な立場の方々が集う機会であり、地方環境研究所の職員が行政以外の分野の方々に関わりが持てる重要な場となっております。また、協議会の目的である「地域住民の健康の保護と、生活環境の保全に寄与する」ための「知識及び技術の向上」には欠かすことのできない最先端の知見を収集できる貴重な場でもあります。このため、協議会がその役割を担っていくためにも、引き続き、貴学会と協力し、大気保全に資する取り組みを行っていきたいと考えております。